この学校では、こんな学びが始まる

理 数 系 人 材 育 成 支 援

理数系人材の裾野を広げる 一気通貫の改革による質的転換

富山県立魚津高等学校

全日制／普通科

この改革が必要な背景

・ 2040年を見据えると、富山県でも**理系分野を担う人材の不足**が見込まれる中、富山県の令和６年度の大学文系学部進学割合が32.1%に対し、**大学理系学部進学割合は21.4%と低く**、理数教育の充実・普及が課題

事業概要（学びの変化）

アプローチ１：全生徒の底上げ・資質開発

・教育課程改革として、**文理分けを３年次に１年遅らせ**、全生徒が「理数探究基礎」・学校設定科目「サイエンス探究」を新たに履修（「総合的な探究の時間」を含め、**探究活動を６単位へ倍増**）

・１・２年次の「理科」と「数学」では、日常生活とのつながりを意識した題材や、１人又は少人数での観察・実験をもとに、理数系科目の面白さを実感できる授業へと変革

・探究的な学びについては、**大学教員や民間企業の専門家（エキスパート）などの協力**を得て、生成AIやデータサイエンスの講義やワークショップを実施して課題設定や観察・実験手法の検討を深めるとともに、課題研究発表会も含めた**少人数ゼミの実施**等により、全生徒が理数系の考え方に触れ、その力を伸ばせる学びを充実

アプローチ２：理数系関心層・トップ層の伸長

・理数系分野に秀でた生徒が受検しやすくできるよう、「理科」「数学」「英語」の配点に傾斜をかけた**理数系科目重視型の高校入試**導入へ

・**大学・民間とをつなぐSTEAMコーディネーター**や、**大学院生等の探究アシスタントを配置**し、整備した観察・実験機器等も活用しつつ、高度な探究活動ができる環境を構築

・最先端の研究に触れ、進学の具体的なイメージを持たせるため、長期休業中に、**連携大学等へのインターンシップを実施**し、卒業に必要な単位に算入

・さらに、生徒個人の好奇心・探究心をより一層高められるよう「サイエンス部」を新設

（探究棟のイメージ）

＜生徒の１日の流れ（例）※普通科２年Aさん（文理分け前）＞

【9:00】
「数学Ⅱ」において、基礎・基本の定着を図る

【10:00】
「化学」において、少人数グループで実験

【13:00】
「総合的な探究の時間」において、大学院生から指導・助言を受ける
※３コマ連続

【16:00】
「サイエンス部」において、大学・民間企業の助言を受けながら研究活動

高校生の未来の姿（指標の例）

大学理系学部進学者割合

（現状）49.3% ⇒ （R10）55% ⇒ （R13）65%

他校への普及方策

・ 授業・講義・教員研修の他校への公開
・ 協力校等との協働学習や生徒主体の成果発表会

主な連携機関

富山大学、富山県立大学、関係自治体、関係事業者団体　等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成